

レーザー光で路側帯示す

興部道路
事務所 上渚滑国道で実証中

紋別市上渚滑町上東の国道273号線の一部にこのほど「レーザー光路面照射式視線誘導標」が試験的に設置された。緑色のレーザー光線で路側帯を示す装置で、霧や吹雪などの視程障害が発生した時の視認性を高めることが目的。稚内や釧路

印刷のことなら
民友総合印刷へ

などでの使用例はあるが、オホーツク管内はこれが初めてという。設置場所は紋別市街地へ向かう車線の協和土木工業土場入口付近。タイマーなどにより夜間になると自動的

にレーザー光線が点滅し、路側帯に沿って明るいラインを引く。道路を管理する網走開発建設部興部道路事務所によると「吹雪になつた際の安全確保を

「レーザー路側帯」の稼働状況。霧や雪の際は路面だけでなく光が通過する部分も「壁」のように見える

想定し、吹雪による視程障害が発生しやすい場所として実証実験の場所を選定した。現在でも固定式視線誘導柱（いわゆる矢羽根）は、あるが、それだけでは見えないことがあり、路外逸脱事故も発生しやすい。今後、固定式との視認性の違いを見てみたい」と話している。設置期間は特定せず「今後もつければなし。更なる展開については効果をj見たい」としている。

